

公共建築物のアスベスト含有吹付け材除去対策等について

公共建築物のアスベスト含有吹付け材の対策については、平成 17 年度に実態調査を行い、アスベスト含有吹付け材の使用が判明した施設については、平成 21 年度までに、基本的に除去・封じ込め・囲い込み等の必要な措置を終了しております。(平成 19 年度の追加調査により主要 3 種類以外の使用が判明した施設を含む)

実態調査で「囲い込み状態にある施設」、「当面对策を要しない施設」とされた施設については、当面は原則的に毎年度、浮遊量測定を実施するなど、適切に維持管理を行い、施設改修時に合わせて対策を実施することとしております。

これらの施設における最新の浮遊量測定結果を報告します。

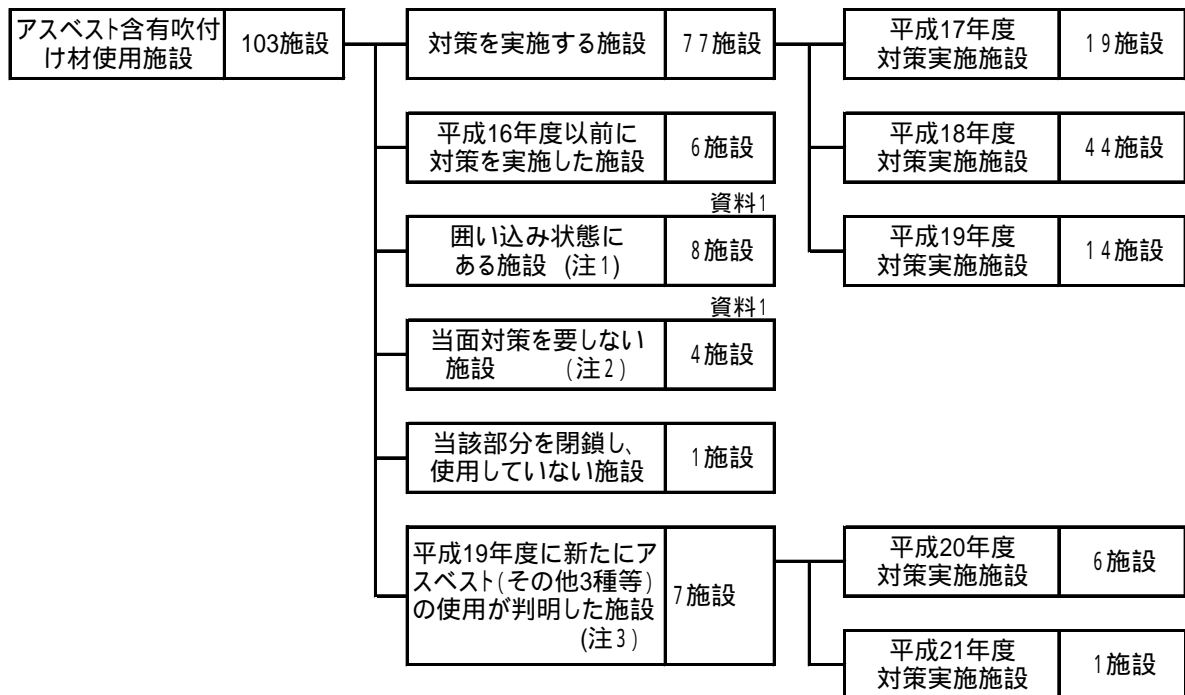
また、平成 17 年度の実態調査の後に、改修工事等によりアスベストの使用が判明した施設の状況についても掲載しております。

公共建築物のアスベスト含有吹付け材 対策実施状況

1 公共施設の実態調査（平成 17 年度調査実施、平成 19 年度追加調査実施）

調査施設数	アスベスト含有吹付け材 不使用施設	アスベスト含有吹付け材 使用施設
2154	2051	103

2 対策実施計画



(注1) 「囲い込み状態にある施設」とは、使用場所が天井裏で密閉されており、吹付け材が比較的有害性の低いクリソタイル(含有率は概ね5%以下・1箇所アモサイト2%)であるもので、今後原則的に毎年度、浮遊量測定を実施するなど、適切に維持管理を行い、施設改修時に合わせて対策を実施する施設です。

(注2) 「当面对策を要しない施設」とは、市民が立ち入ることのない機械室等で、吹付け材に含まれるアスベスト含有率が1%以下と低いこと、比較的有害性が低いクリソタイルであること、吹き付け材が綿状ではなく固化状であること等により、当面は原則的に毎年度、浮遊量測定を実施するなど、適切に維持管理を行い、施設改修時に合わせて対策を実施する施設です。

(注3) 平成17年度の実態調査で分析を実施した施設の一部では、6種類あるアスベストの内、主要な3種類のみを対象とした方法で分析を行っていたことが判明したため、再分析を実施しました。

主要な3種類 ... クロシドライト、アモサイト、クリソタイル

その他の3種類 ... トレモライト、アクチノライト、アンソフィライト

囲い込み状態にある施設（8施設）

所管局	所在区	施設名	室名等	吹付け状況	アスベスト浮遊量(1)		測定時期
					(本/L)	定量下限値 (2)	
市民局	西	横浜みなとみらいホール	5F大ホール	天井裏	0.2未満	0.2	H22.03
	都筑	都筑区総合庁舎	研修室・通路等	天井裏	0.3未満	0.3	H21.06
	神奈川	神奈川公会堂	客室ステージ等	天井裏	0.3未満	0.3	H21.02
	青葉	青葉区総合庁舎	事務室天井内	天井裏	0.2未満	0.2	H22.01
健康福祉局	中	健康福祉総合センター	駐車場車路	天井裏	0.3未満	0.3	H21.11
道路局	鶴見	スカイウォーク	ラウンジ	天井裏	0.3未満	0.3	H22.02
港湾局	中	産業貿易センタービル	5F事務室	天井裏	0.3未満	0.3	H22.01
	中	本牧ふ頭LFS上屋	1F、2F事務室	天井裏	0.2未満	0.2	H21.10
施設数合計			8施設				

当面对策を要しない施設（4施設）

所管局	所在区	施設名	室名等	吹付け状況	アスベスト浮遊量(1)		測定時期
					(本/L)	定量下限値 (2)	
都市経営局	西	横浜国際協力センター	機械室等	露出(固化状)	0.23	0.057	H22.03
市民局	西	西区総合庁舎	機械室等	露出(固化状)	1.1	0.6	H21.09
環境創造局	西	野毛山動物園	シマウマ棟	露出(固化状)	0.3未満	0.3	H21.07
消防局	戸塚	戸塚消防署	2F書庫	露出(固化状)	0.3未満	0.3	H22.01
施設数合計			4施設				

改修工事等により平成20年度以降にアスベストの使用が判明した施設（1施設）

所管局	所在区	施設名	室名等	吹付け状況	アスベスト浮遊量(1)		測定時期
					(本/L)	定量下限値 (2)	
経済観光局	金沢区	中央卸売市場南部市場	花き棟事務室	天井裏	0.2未満	0.2	H22.02
		天井裏に密閉されており、施設改修時に合わせ対策実施予定。当面は定期的に浮遊量測定を実施し適切に維持管理します。(H21.02含有が判明)					

当施設は、2ページの実態調査後に判明したもので、「対策実施計画」の施設数には含まれていません。

(1)アスベスト浮遊量については、WHO(世界保健機構)の保健報告書によると、「世界の都市部の一般環境中の石綿濃度は、1～10本/リットル(大気1リットル中に繊維が1～10本程度)であり、この程度であれば健康への影響は見出せない旨記載されています。

(2)測定にあたり測定機関が設定した数値であり、機関ごとに差異があります。